

地域が元気になるまちづくり

／首都大学東京 饗庭伸

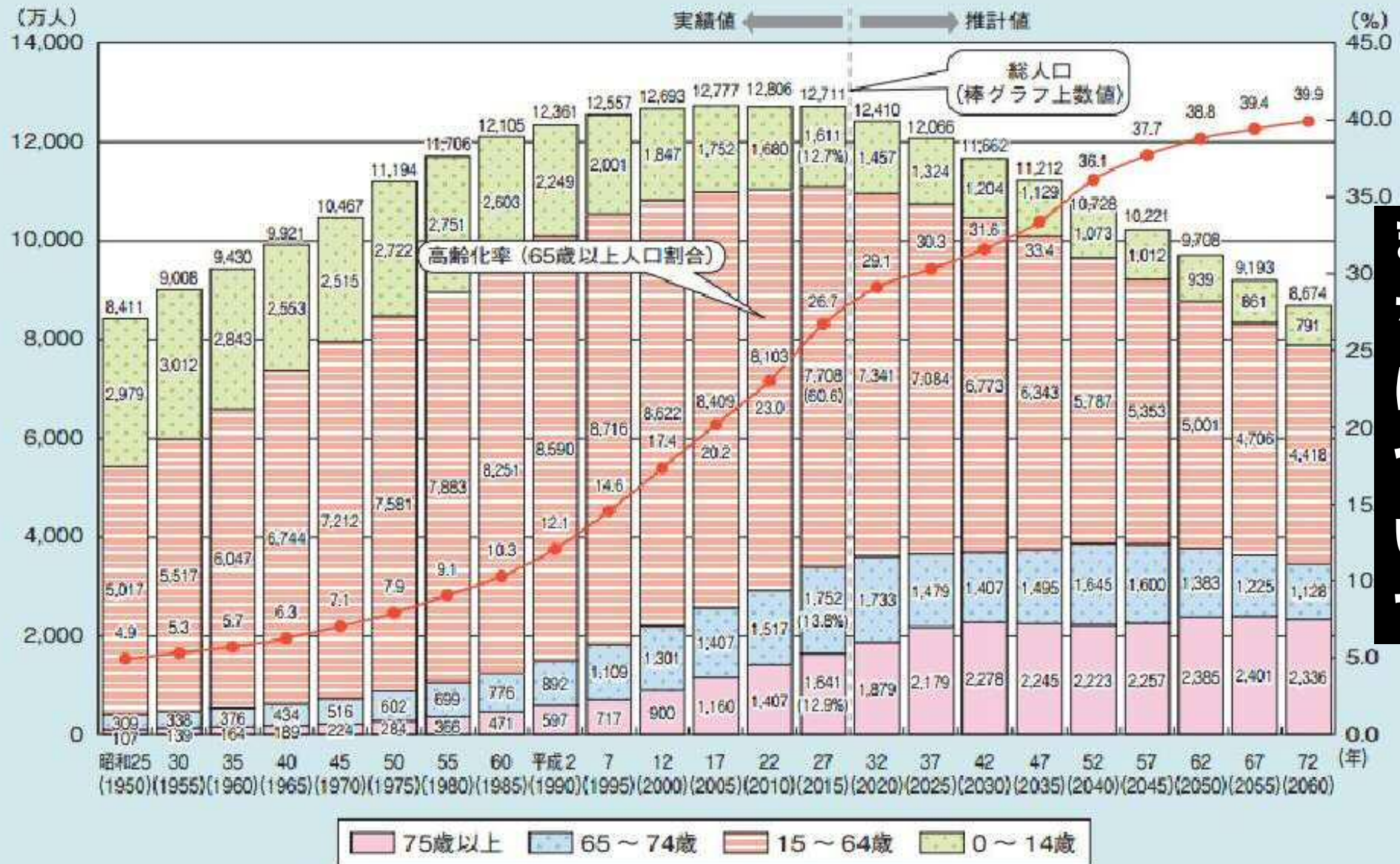
- 1 まちについて
- 2 人口について
- 3 まちづくりについて

1 まちについて

2 人口について

3 まちづくりについて

人口減少がはじまった



まちなみレポート

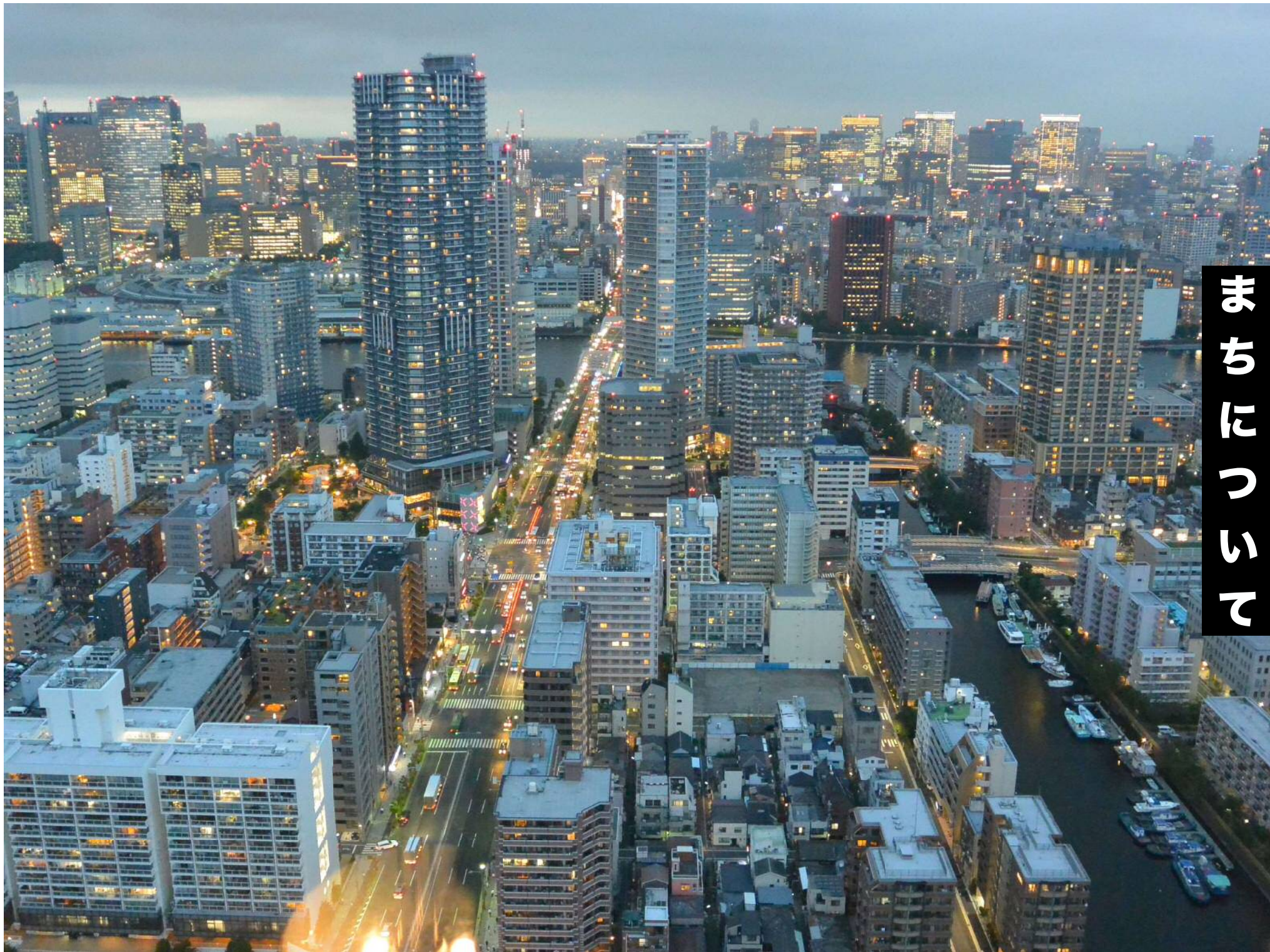
資料：2010年までは総務省「国勢調査」、2015年は総務省「人口推計（平成27年国勢調査人口速報集計による人口を基準とした平成27年10月1日現在確定値）」、2020年以降は国立社会保障・人口問題研究所「日本の将来推計人口（平成24年1月推計）」の出生中位・死亡中位仮定による推計結果

(注) 1950年～2010年の総数は年齢不詳を含む。高齢化率の算出には分母から年齢不詳を除いている。

人口増加期には、「まちをつくる」ことが人生の目的に置き換えられていた。



まちをつくる



まちにっしゅ



まちに
ついで

堀切あたり



昭和22年 米軍撮影



平成30年 google map



ま
ち
に
っ
い
で

4丁目

京成本線

京成本線

3丁目

308

隆照寺

佐久間産婦人科クリニック

堀切小

2丁目

Google

防災公園

柴又帝釈天あたり

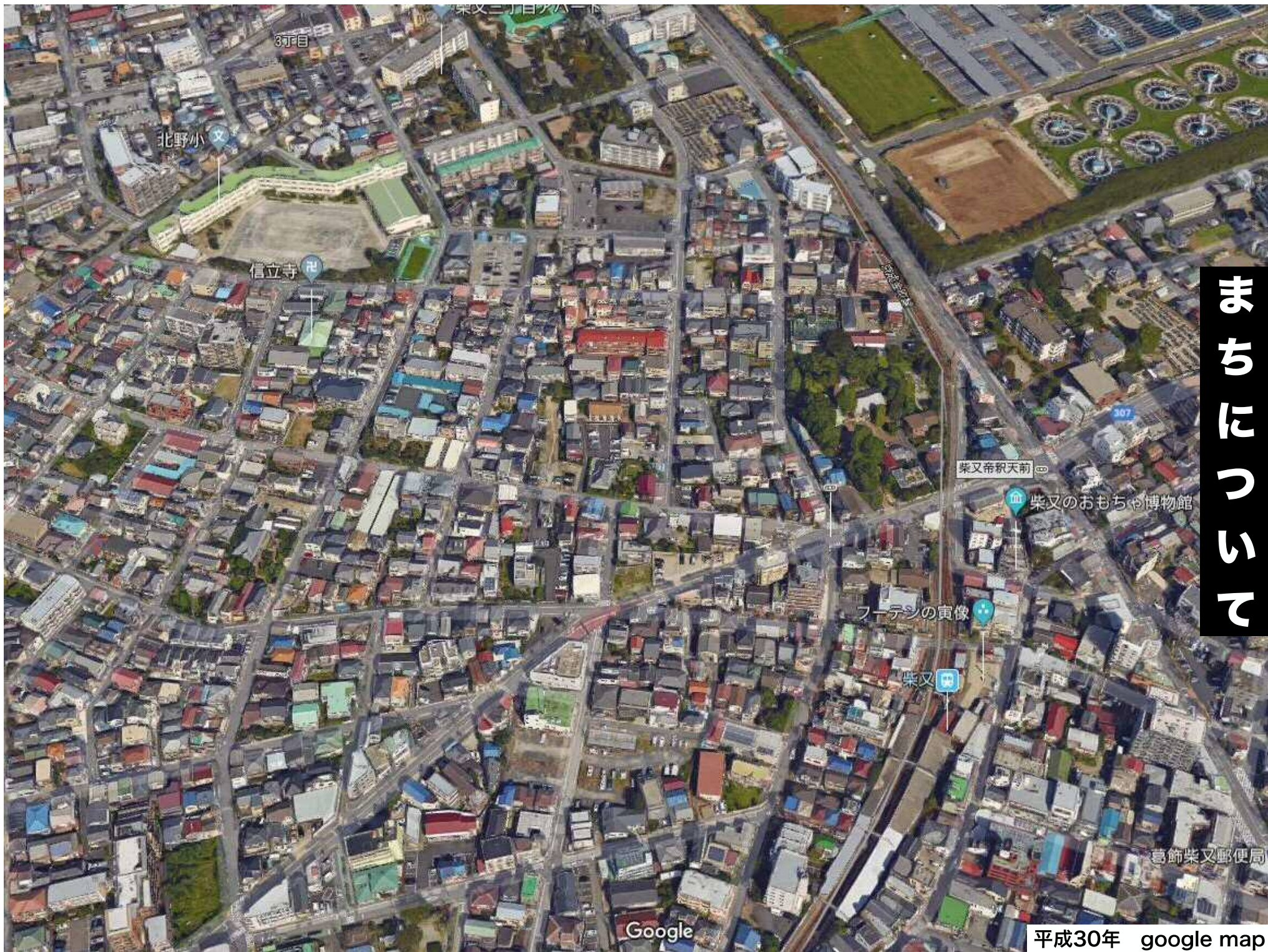


昭和22年 米軍撮影



まちについて

平成30年 google map



まちに
ついで

水元公園あたり

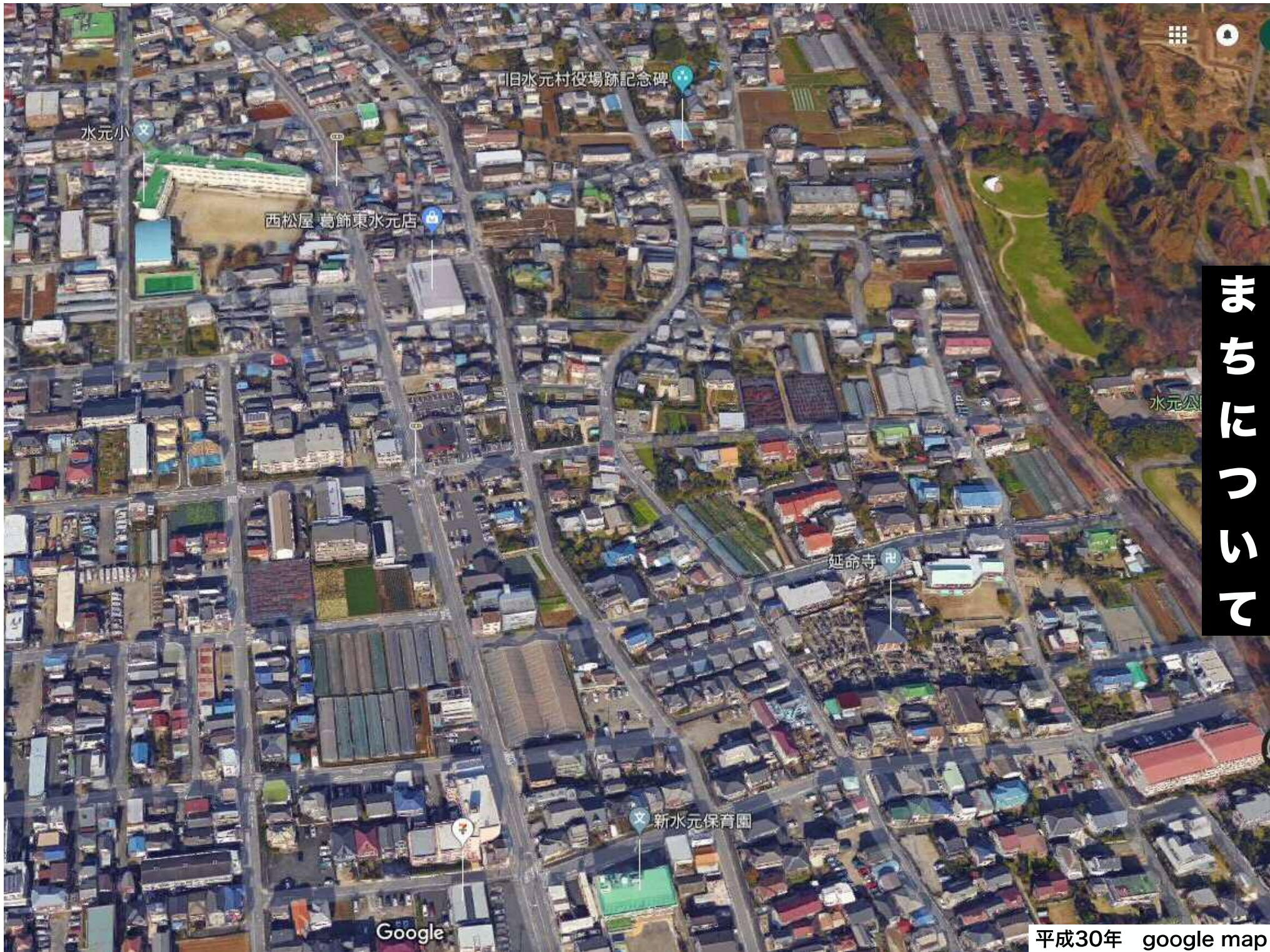


昭和22年 米軍撮影



平成30年 google map

まちにうつりて



まちにっいで

葛飾では「そこそこ良いまち」を作ってきた。

人口が減少して、まちはもう余り始める。

もうまちをつくることを人生の目的にしなくてもよい。

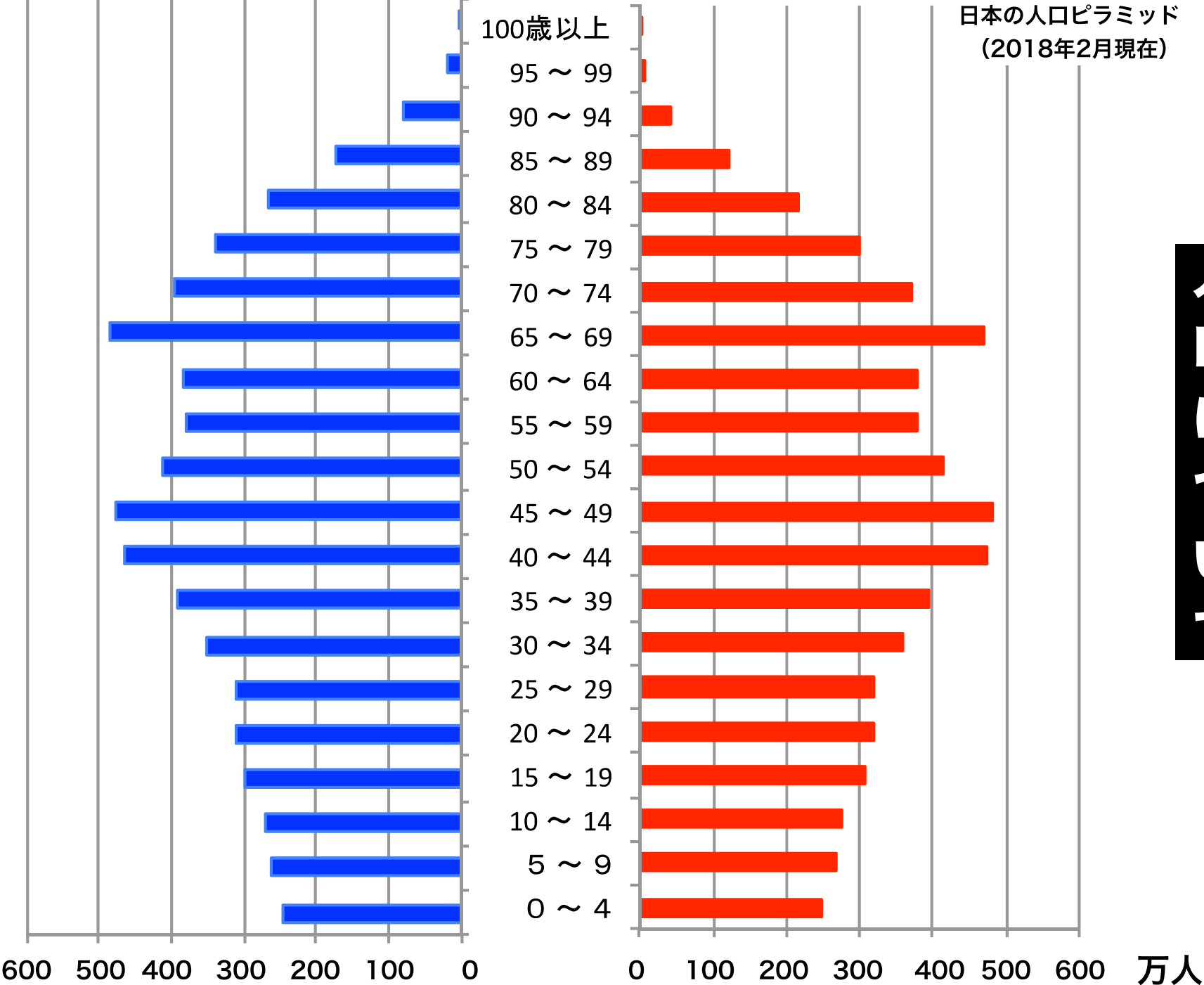
これからは「つくる」だけではなく「つかう」。

1 まちについて

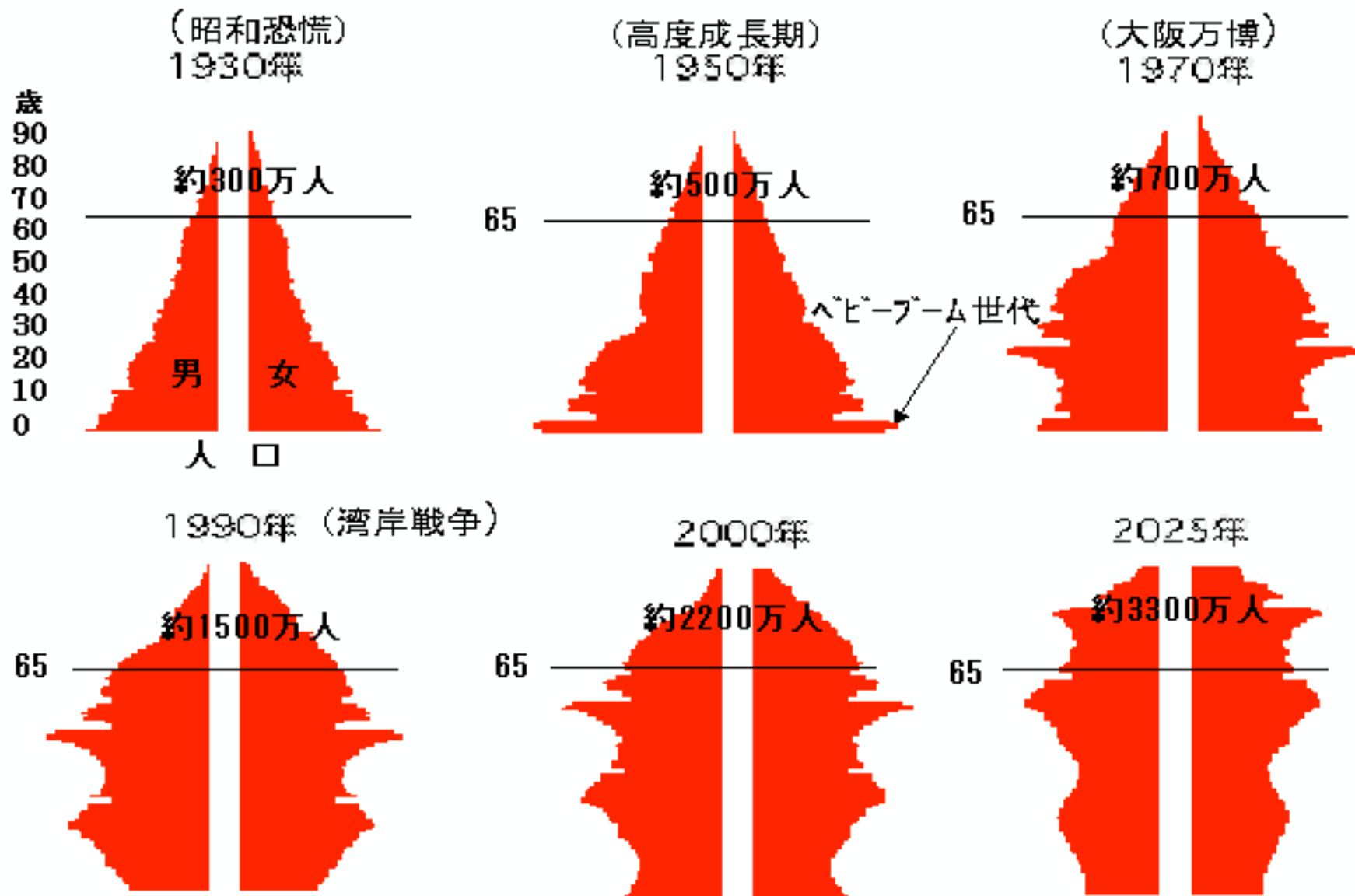
2 人口について

3 まちづくりについて

日本の人口ピラミッド
(2018年2月現在)



人口ピラミッド

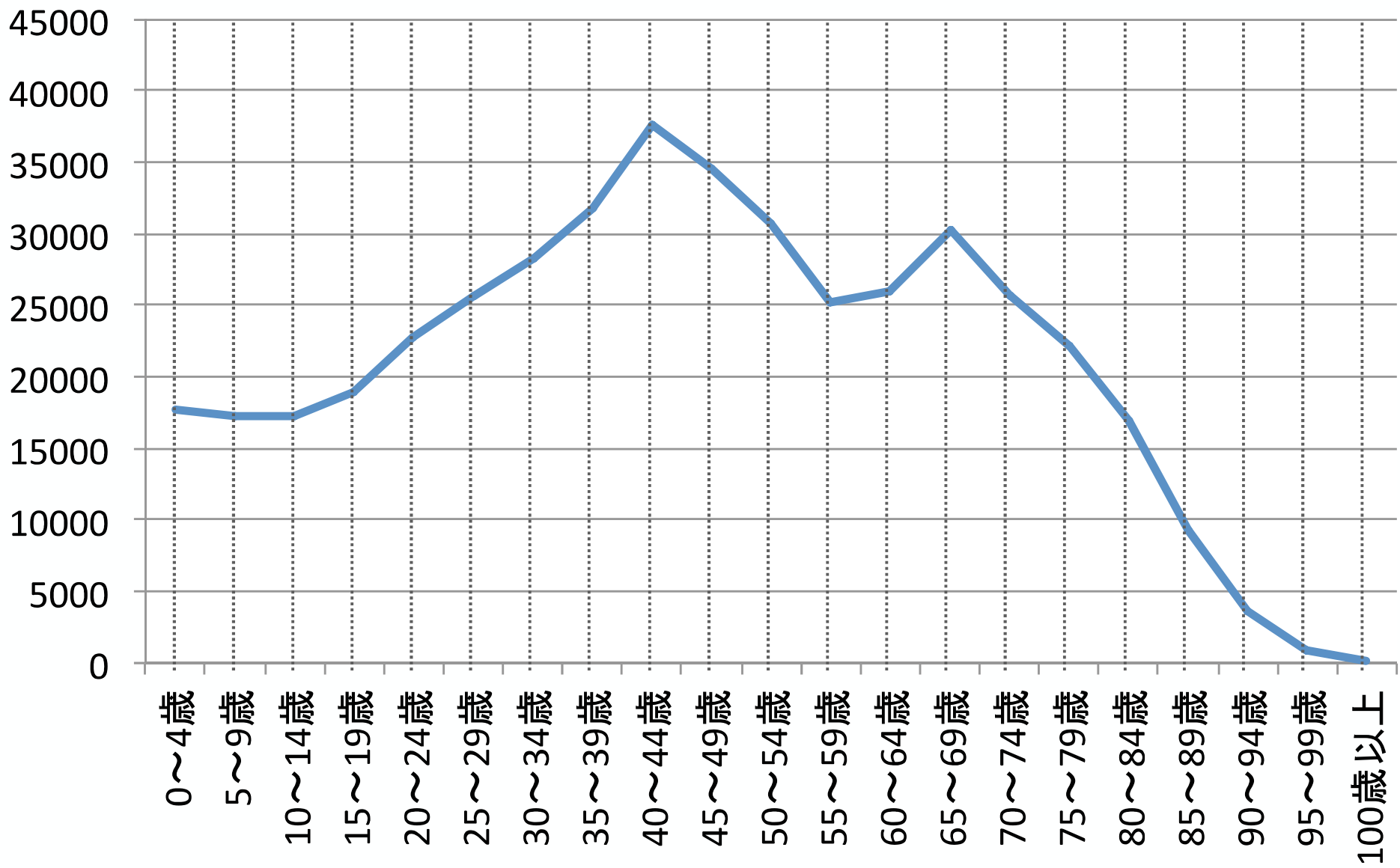


人口ピラミッド

ある時期にたまたま多く生まれた、多くの方が寿命を迎えるから人口が減るのであって、みんなの寿命が短くなるわけではない。

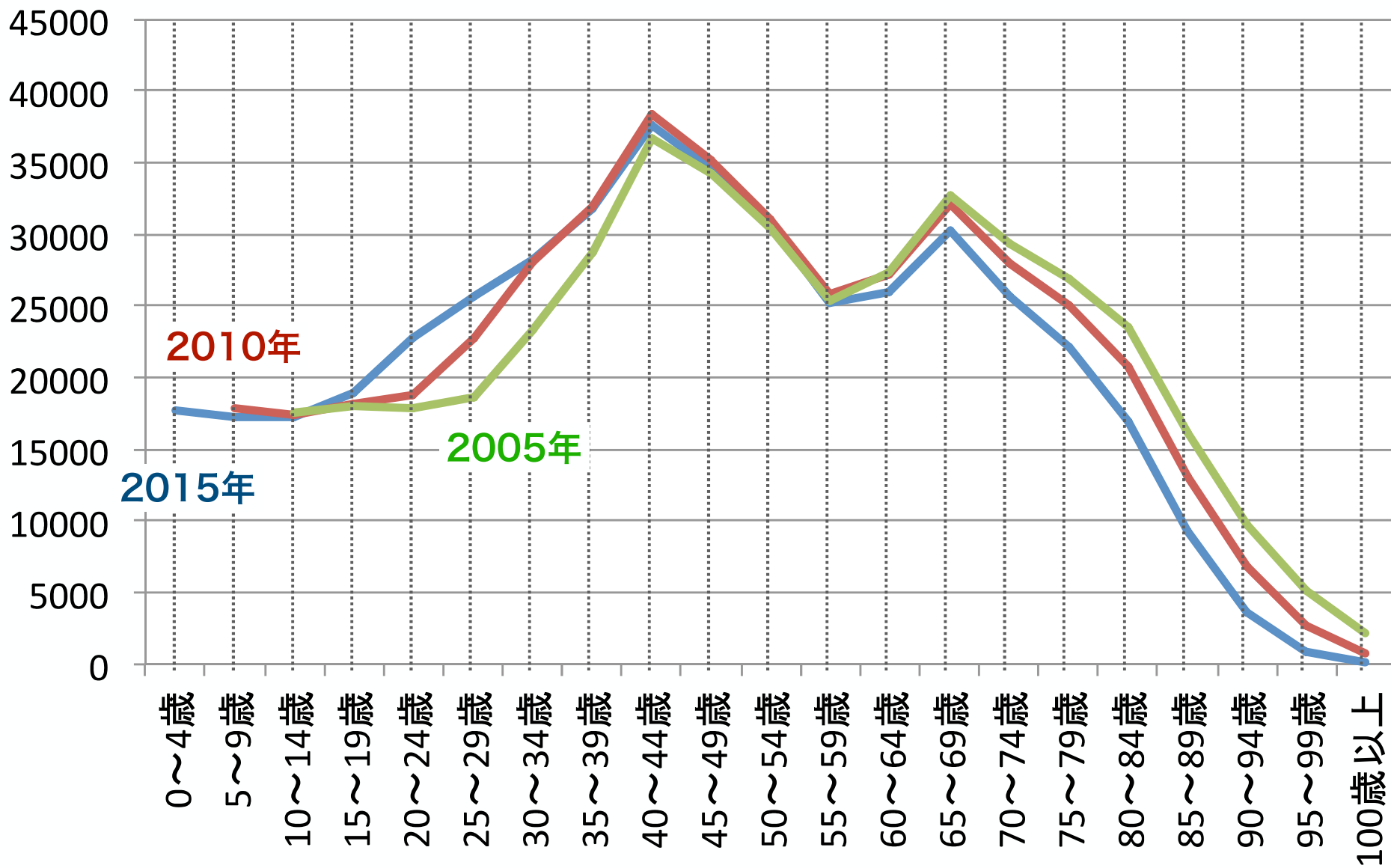
人口が増えない、高齢者ばかりの地域社会になる。税収も増えないことを前提に、いかにうまくマネジメントをしていくか？

人口ピラミッド



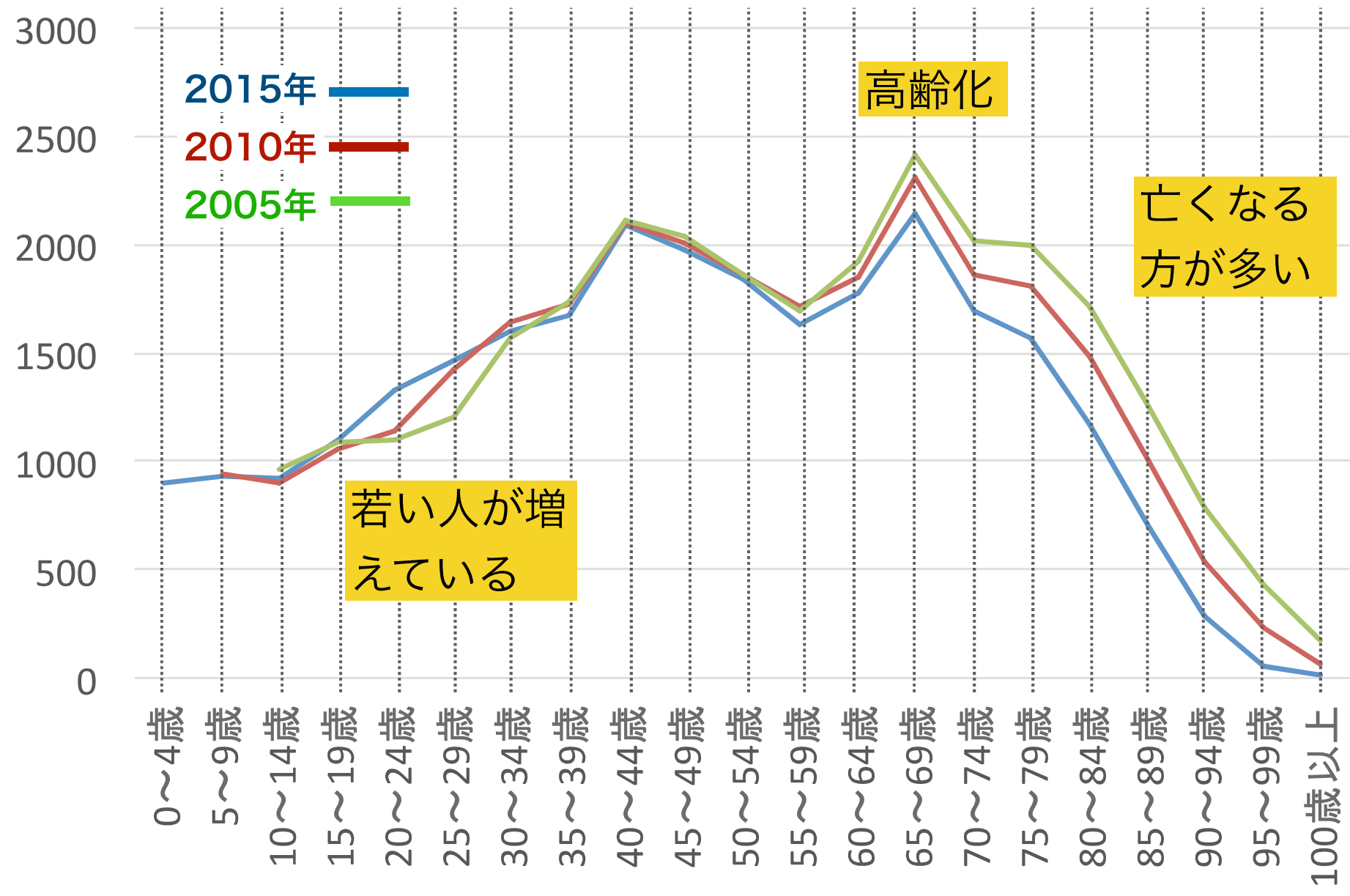
2015年 葛飾区全体

人口ピラミッド



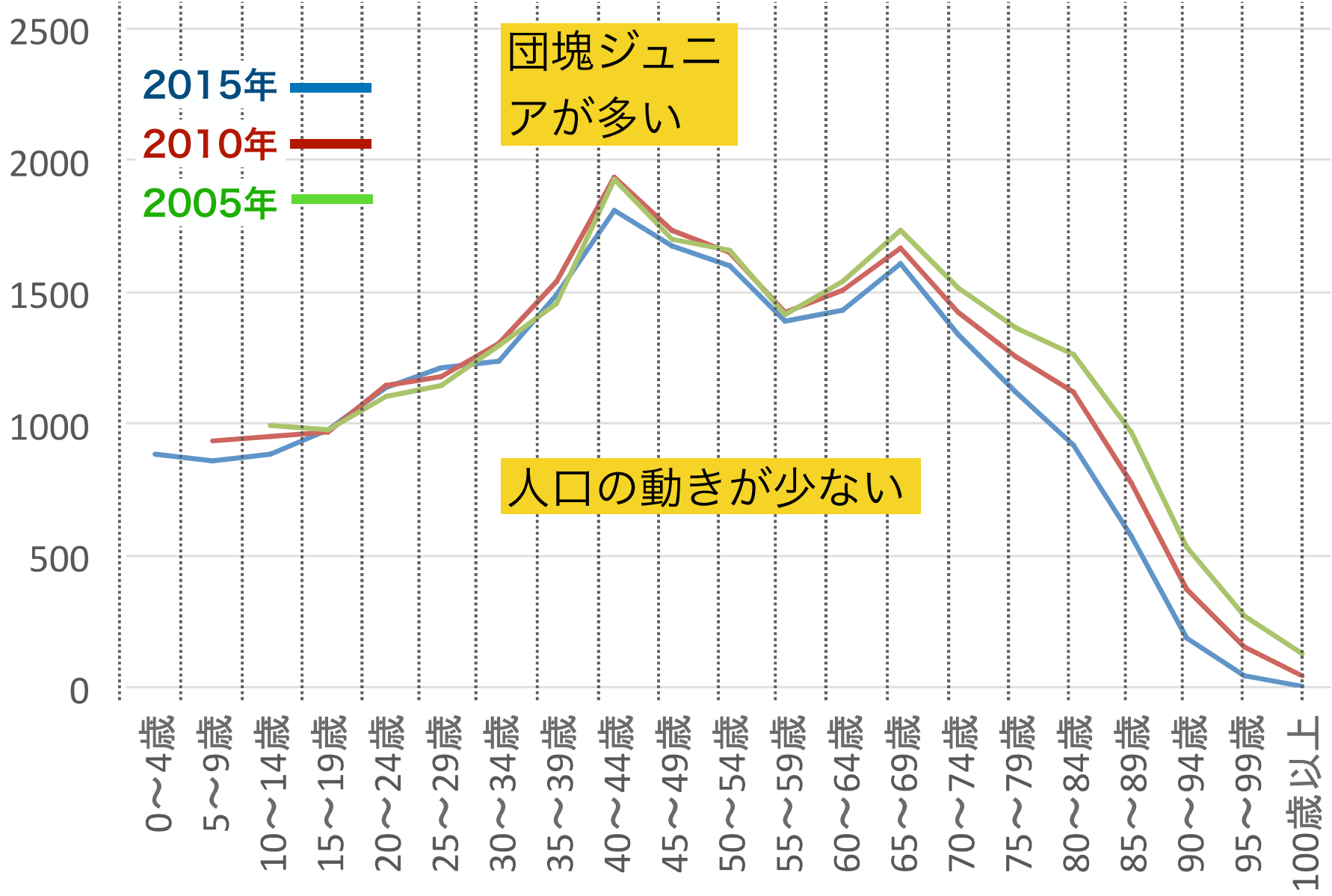
2005年～15年 葛飾区全体

人口ピラミッド



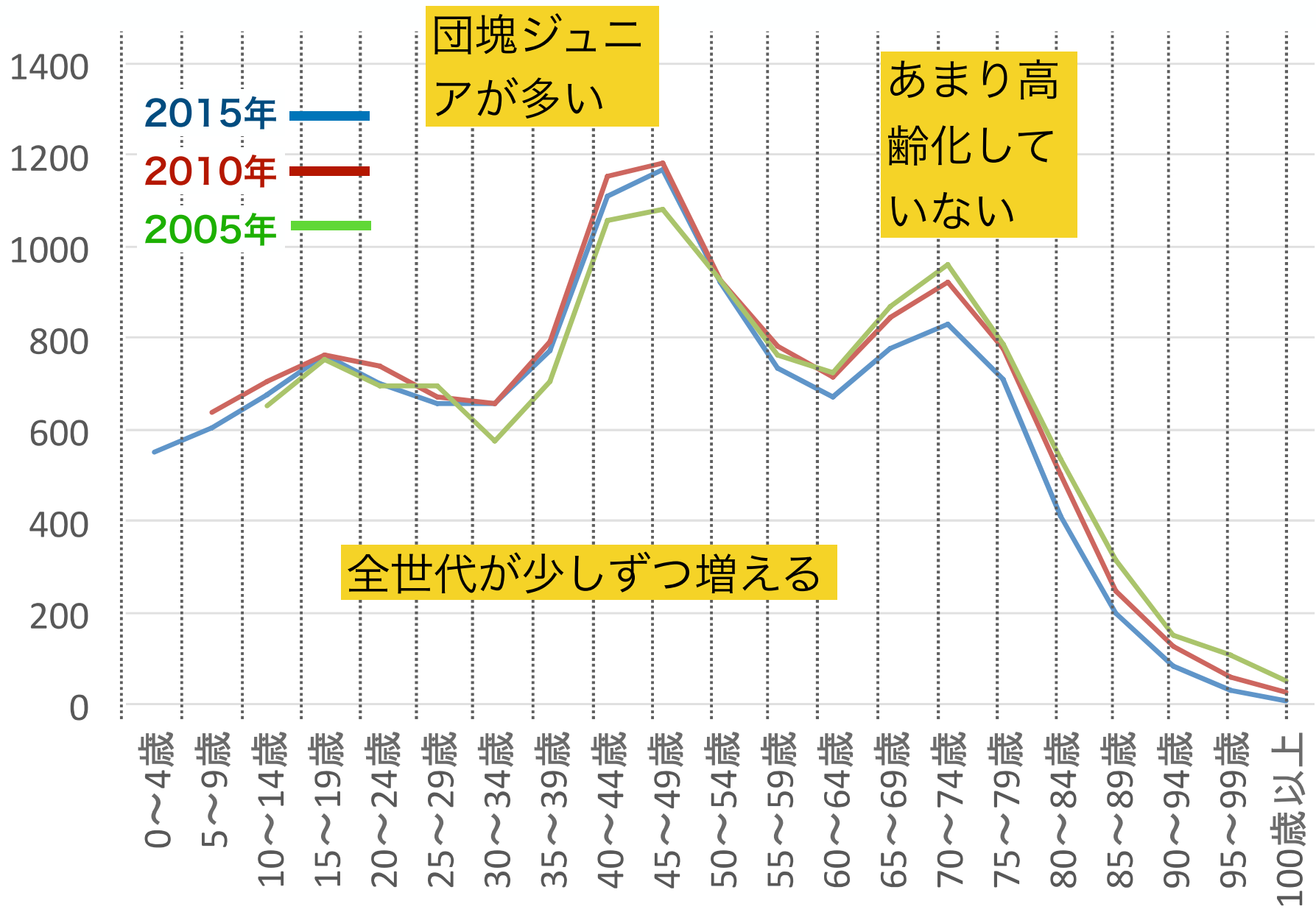
2005年~15年 堀切

人口ピッチャー



2005年~15年 柴又

人口ピラミッド



団塊ジュニアが多い

あまり高齢化していない

全世代が少しずつ増える

2005年~15年 水元

地域にどういう世代の人が住んでいるのかを知る。

その世代が5年後、10年後に何を必要とするかを考える。

まちづくり、まちづかいとして何をやっていけばよいかを考える。

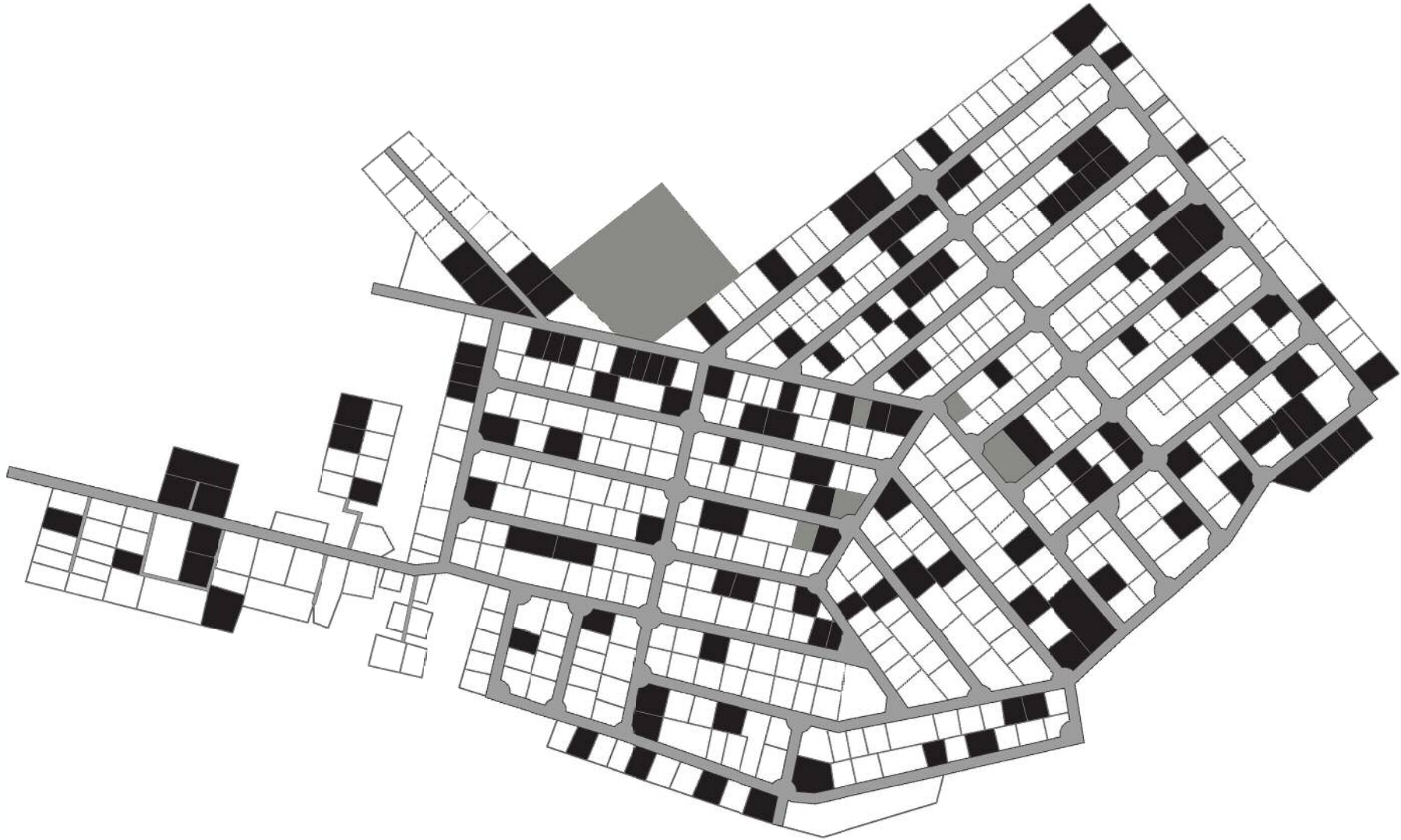
1 まちについて

2 人口について

3 まちづくりについて

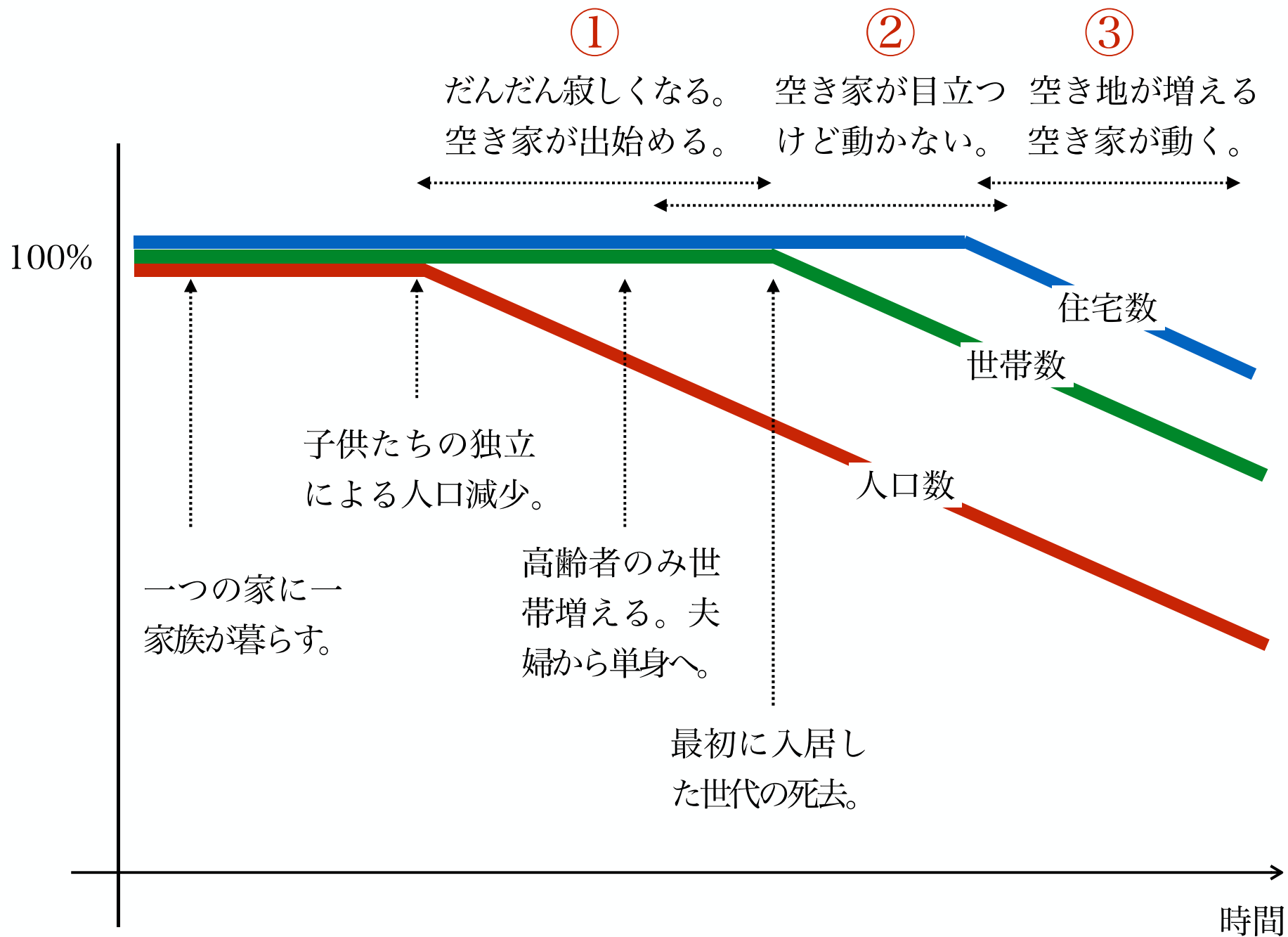
これからのまちはどうなるか？

=まちのスポンジ化



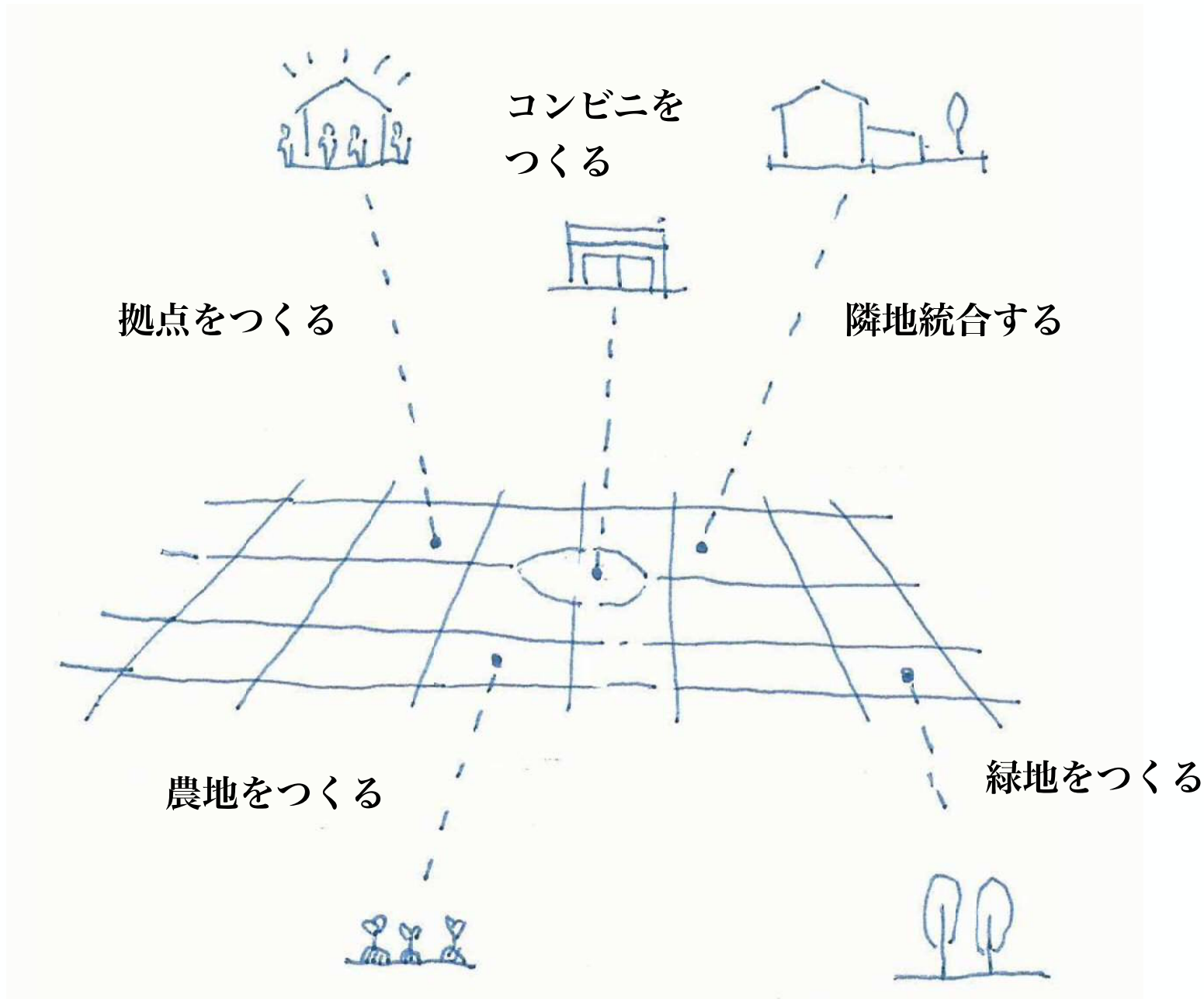
まちづくりの未来

空き家とまちの状態



まちづくりのしくみ

小さな「スポンジの穴」を活用するしかない



まちづくりのしくみ

これからのまちは・・・

ゆっくりと変わる

個人が変える

小さな規模で変わる

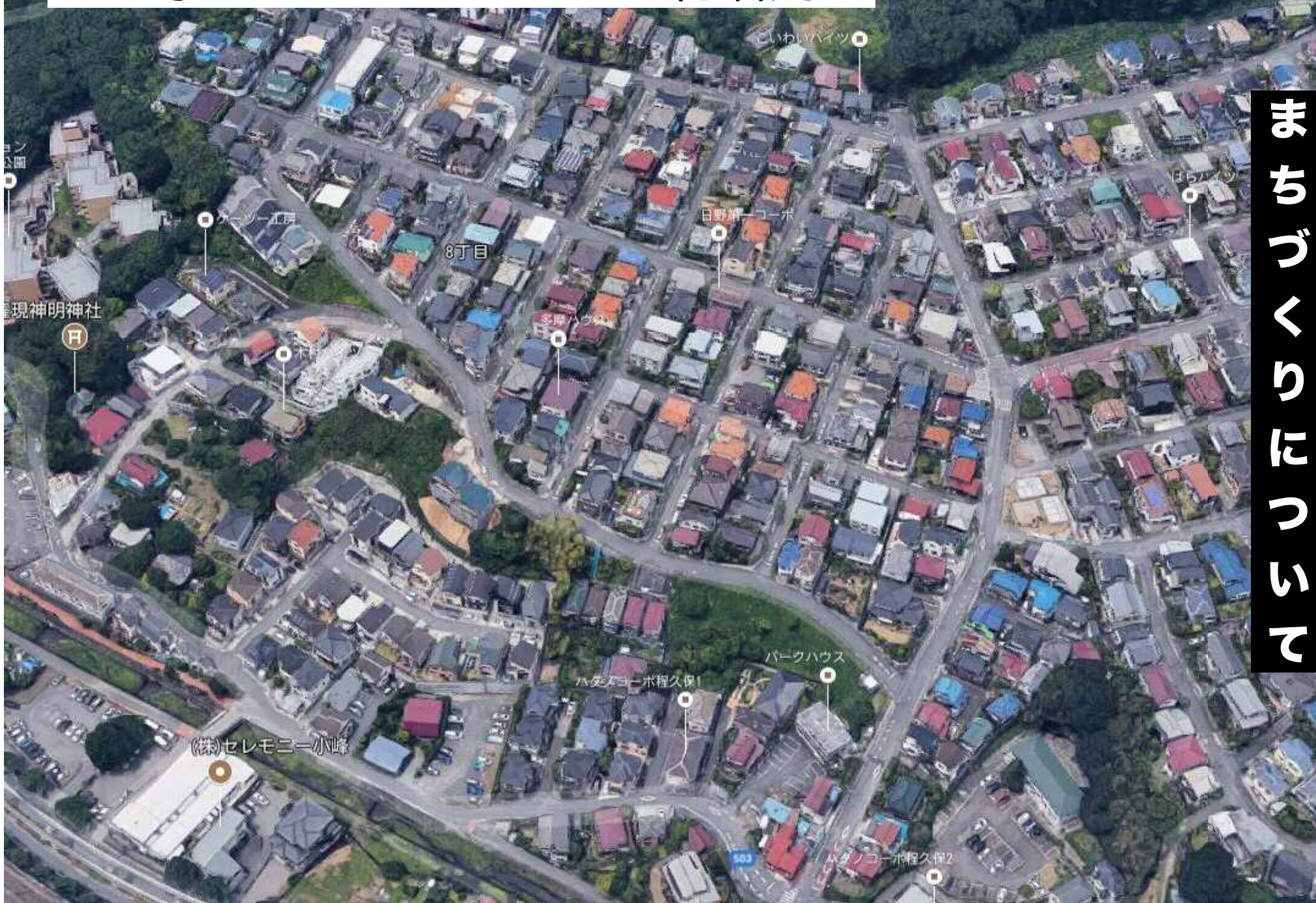
様々なものに変わる

あちこち（ランダムな場所）で変わる

空き家のコミュニティでの利活用

市立南平東地区センタ

コーポ



まちづくりを
つくる



まちづくりワークショップ



まちづくりのしくみ

現在の暮らしで困っていること、
現在の暮らしをよくするには?

3年後にどういう暮らし方を
したいか?

地域住民 入れ替わる人

まちなみ

ま

① 今の生活が
好きでいること

① 今の生活が
好きでいること
が大事。
住みたい。

② 着物の状態
がどうなるか、
そのために
にしたい。

③ 今の生活が
好きでいること
が大事。
住みたい。

① 新しい人の
知り合う
きっかけを
設ける場

② 今の生活が
好きでいること
が大事。
住みたい。

① 今の生活が
好きでいること
が大事。
住みたい。

① 若くは、
近所
に住む人が
いい。

② 今の生活が
好きでいること
が大事。
住みたい。

③ 今の生活が
好きでいること
が大事。
住みたい。

④ 今の生活が
好きでいること
が大事。
住みたい。

① 今の生活が
好きでいること
が大事。
住みたい。

① 今の生活が
好きでいること
が大事。
住みたい。

① 今の生活が
好きでいること
が大事。
住みたい。

① 今の生活が
好きでいること
が大事。
住みたい。

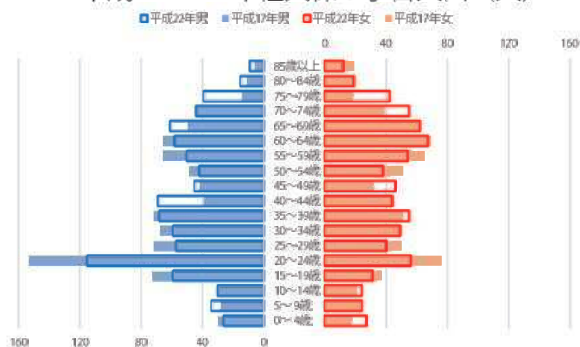


あ
ち
ぐ
へ
ら
じ
り
す
り

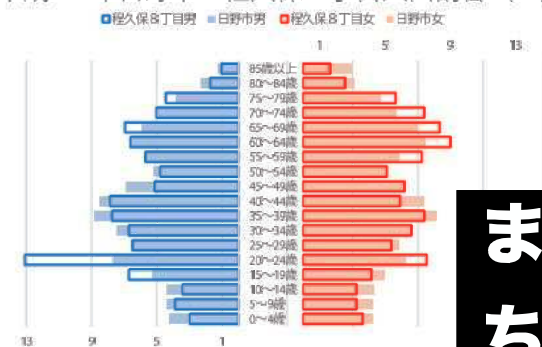
武蔵野台自治会 5つのコマリゴト

武蔵野台自治会地区は自然豊かで落ち着いた住宅地です。
この地区の良さを保ちつつ、より良いまちにするために、
以下の5つのコマリゴトを意識したまちづくりが重要です。

平成 17・22 年程久保 8 丁目人口 (人)



平成 22 年日野市・程久保 8 丁目人口割合 (%)



1.世代間の接点

地区の人口は、大きく分けて流動的な若者世代と定住世代で構成されます。現在この2つの世代の接点がないため、なんとなく地域の交流が少ないと感じている状態です。

2.急な坂道

急な坂道があり、南北への移動が大変です。東西方向の移動を重視することで、坂道をなるべく使わずに生活を組み立てることも可能です。

3.空き家・空き部屋の増加

空き家・空き部屋が増えています。しかし、この地区は学生からの需要があるため、学生をターゲットとした空き家・空き部屋活用の可能性がありそうです。

4.歩行者の魅力

この地区はハイキングをする人の通り道にもなっていますが、現在はどこも似たような景観で、歩行者にとって魅力的とは言えません。庭・外構の工夫で通りにキャラクターを持たせることができそうです。

5.オープンスペースがない

現在この地区にはオープンスペースがありません。オープンスペースは子どもの遊び場、防災拠点、移動販売の駐車場などとして使われます。様々な人が様々な目的に使えるオープンスペースが必要です。

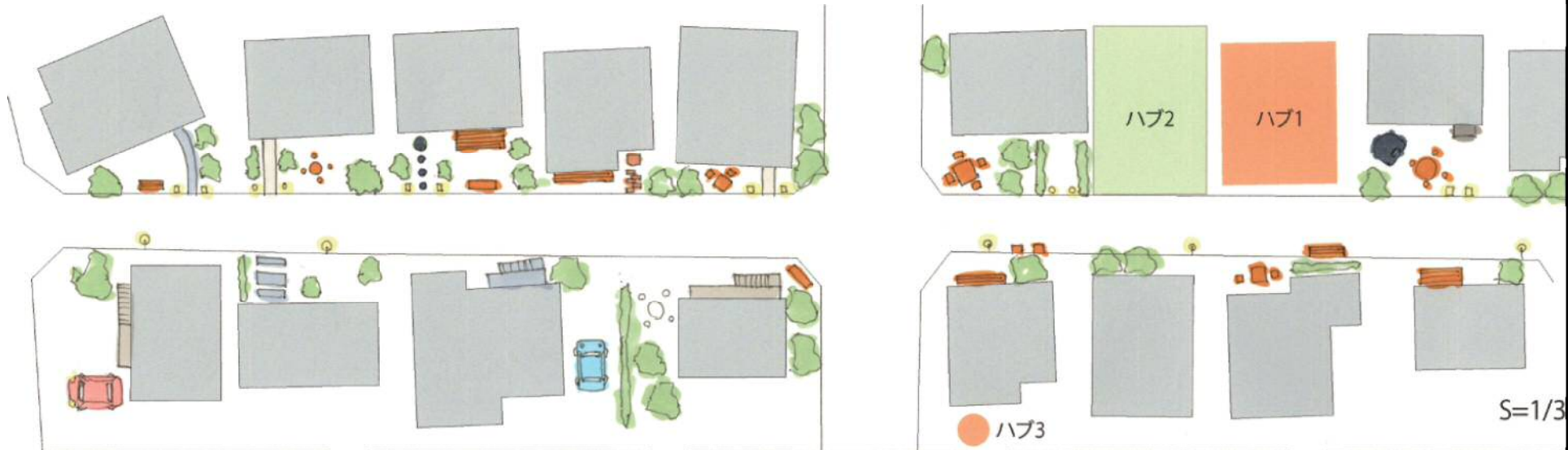


まちづくりたいし

杉の子通り(仮)を楽しくする3つのハブと7つの工夫

空き家、空き部屋、空きガレージなどの地域に点在する使われていない空間を、若者を対象とした下宿や、カーシェアなどの近隣住民で使える小さな機能で満たしていき、地域の利便性、価値を向上させます。

- ハブ1 地域のリビング
WSや軽い食事など、地域内、世代間の交流ができる場をつくります。
- ハブ2 公園
防災や移動販売の拠点といった小さな機能を集めた広場をつくります。
- ハブ3 カーシェア
地域で保有する車を集約することで、ガレージを空け、他の用途に転用します。



1. 塀を減らす
2. 道端を豊かに

塀を減らし、道端に門灯やベンチを設置することで、開放的な通りを作ります。



3. 空きガレージを何かに
4. 擁壁に何かを

空きガレージや擁壁に、工房などの小さな施設や掲示板などの情報発信の機能を埋め込んでいきます。



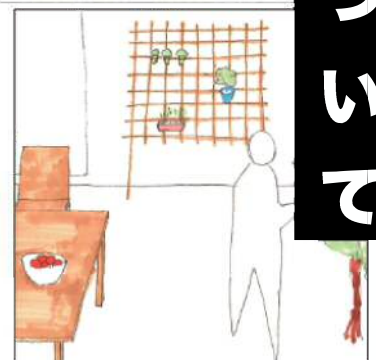
5. 生活の場を1Fに

生活の場を1Fにおくことで、通りに人の気配を生み、活気と防犯性を向上させます。



6. 空き家・空き部屋を下宿に

空き家・空き部屋が出たら、ハブ1と連携させつつ、学生の下宿として活用します。



7. 食べられる植栽

植栽は食べられるものを植え、災害時の備えを作ります。

まちづくりのしくみ



まちづくりセンター

不法投棄見逃し防止ステーション
町民/パトロール実施中

不法投棄厳禁
ごみ・燃やしたくわい物・危険物等は
指定された場所へ分別して投入してください。
燃やしたくわい物・危険物は
燃やさないでください。
燃やしたくわい物・危険物は
燃やさないでください。



まちづくりたいじくら

武蔵野台自治会では、住民の手で広場の土を
らし、菜園や花壇を作りました。採れたサ
イモを炊き出し訓練で食べたりもしています



まちづくり委員会

税金を使っていない。

お金もあまり使っていない。

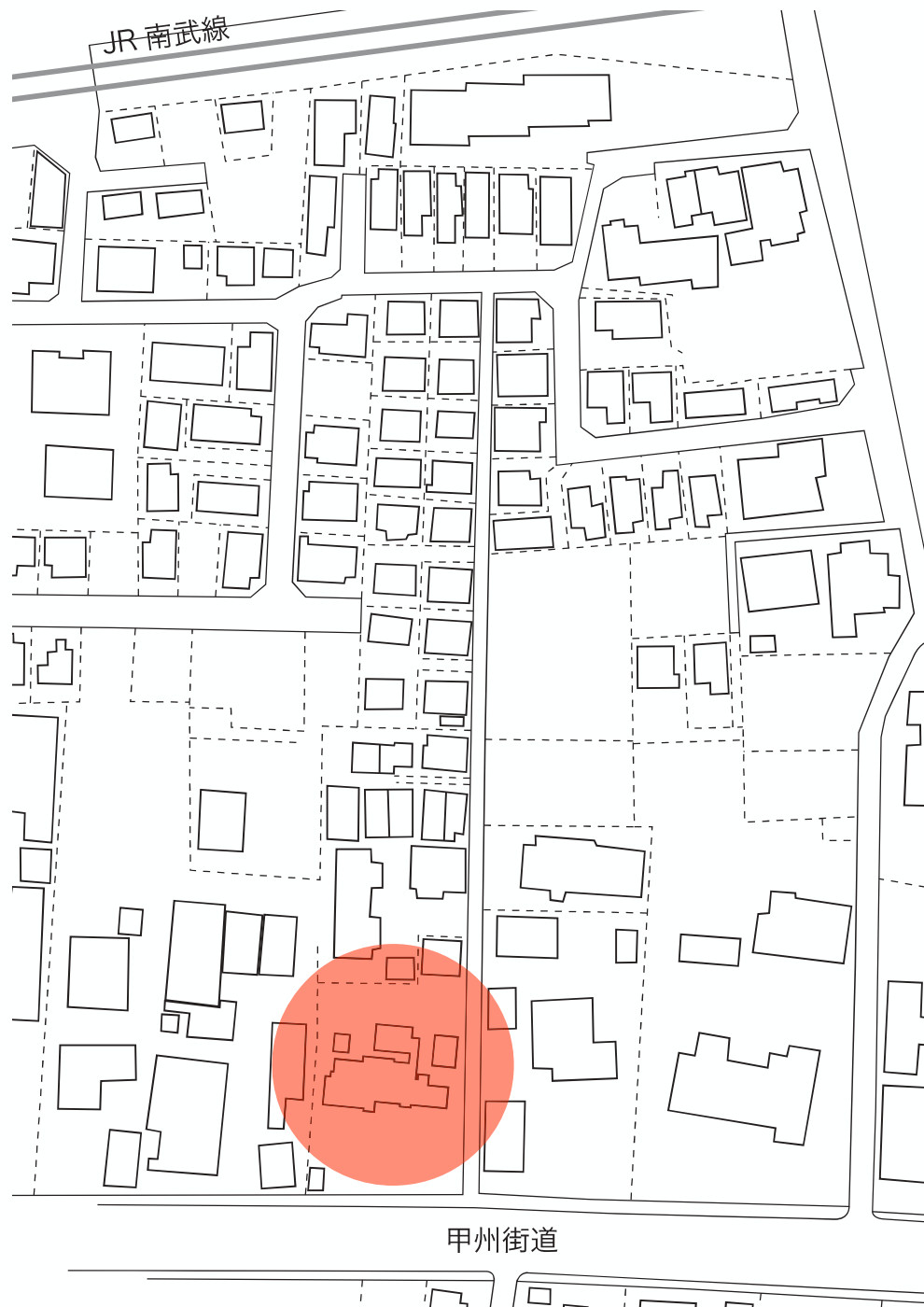
そのかわりに「人のつながり」と
「余っている建物」を使った。



空き家のコミュニティでの利活用



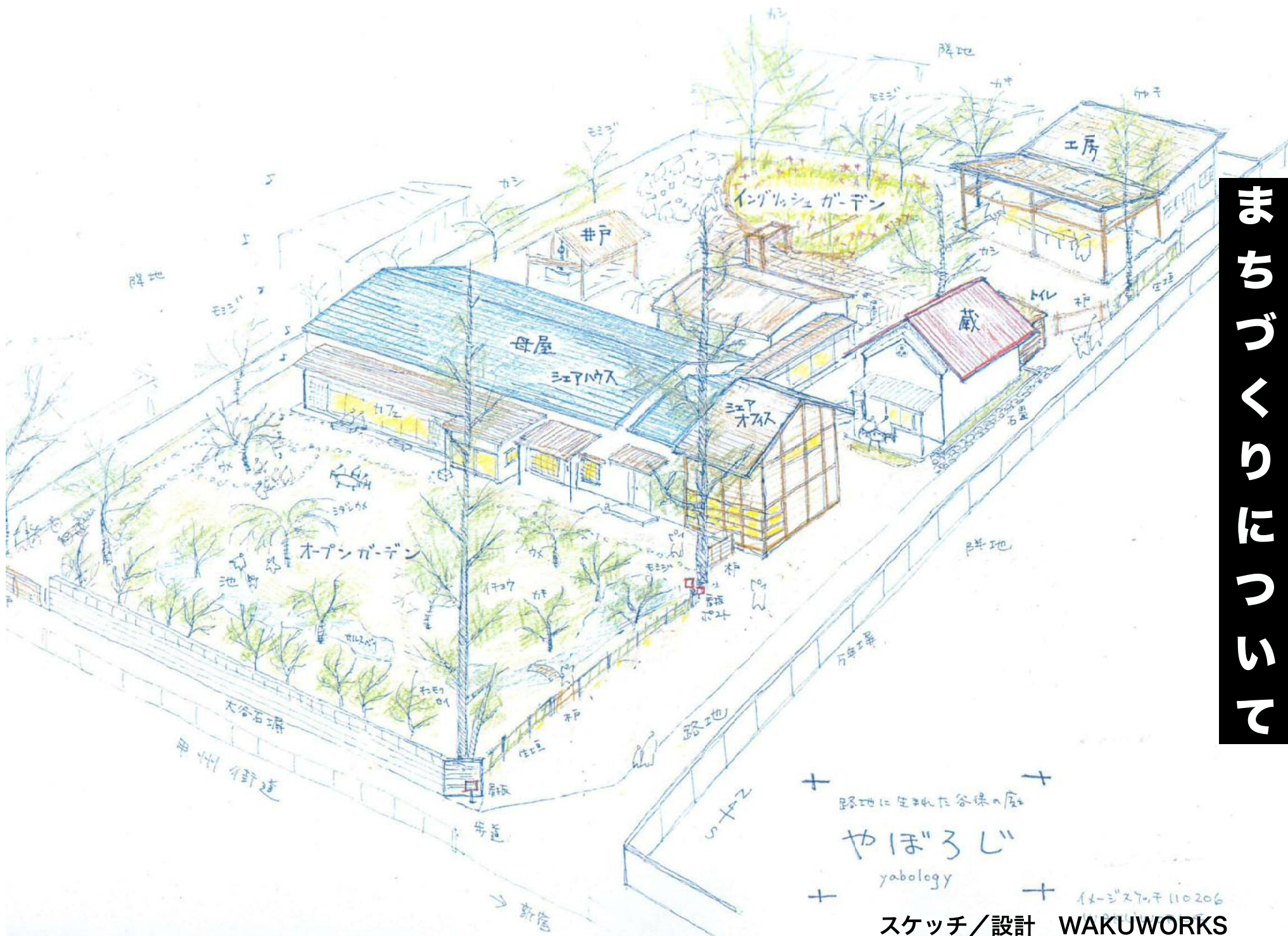
まちづくりセンター



まちづくり方針



まちづくりプロジェクト



まちづくりたいじふろ

+ 路地に生れた谷縁の屋
+
+ やほろじ +
+ yabology +
+ イー・ジ・ス・ア・ア 110206 +

スケッチ/設計 WAKUWORKS



まちづくりセンター



まちづくり祭り

税金を使っていない。
お金もあまり使っていない。
そのかわりに「人のつながり」と
「余っている建物」を使った。



まちづくり事務所

1 まちについて

葛飾では「そこそこ良いまち」を作ってきた。

人口が減少して、まちはもう余り始める。

もうまちをつくることを人生の目的にしなくてもよい。

これからは「つくる」だけではなく「つかう」。

2 人口について

地域にどういう世代の人が住んでいるのかを知る。

その世代が5年後、10年後に何を必要とするかを考える。

まちづくり、まちづかいとして何をやっていけばよいかを考える。

3 まちづくりについて

これからのまちは、ゆっくりと変わる、個人が変える、小さな規模で変わる
様々なものになる、あちこち（ランダムな場所）で変わる

税金を使わない。

お金もあまり使わない。

そのかわりに「人のつながり」と「余っている建物」を使う。

ご静聴ありがとうございました！